

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

野球ファンが待ちに待った季節の到来だ。重かった服を一枚脱いで、選手たちの一球一打を楽しみたい。学校は卒業式シーズン。この3年間、思い描いた活動は十分にはできなかつたに違いない。でも、この期間に考えたことや工夫したこと、新たに志したこともあるのだろう。大人も子どもも、新しい何かを始める絶好の春がやってきた。

ゆめみつき

夢見月 ～草木と一緒に見る夢～

三月の異称と言えば、まず弥生

ですね。語源は、きくさいやおいづき木草弥生月が変化したものということです。「弥」は、「ますます」とか「いよいよ」という意味ですから、木や草がますます生い茂る月ということになります。

その月に咲く代表的な花が季節の呼び名になることも多く、桃月、桜月という呼び方もあります。

そう、旧暦では、桜が咲く頃ですから、はなさきづき花咲月、花見月ともいいました。

桜のことを夢見草ともいいます。そこから夢見月とも呼ばれるようにもなりました。

日に日に暖かくなり、春を迎える喜びが、一番感じられる月です。

新しい芽をふき、次々と花を咲かせる草木たち。それにつられて、私たちも、美しい夢を見ることが出来ますね。（山下景子「美人の日本語」より）

公民館運営懇談会の開催 3月1日(水)

令和4年度、2回目の懇談会を開催しました。今年度のこれまでの公民館利用状況や主催事業の報告、令和5年度の事業計画案を説明しました。

- ・2年ぶりの文化祭開催
- ・昨年12月から通常利用に
- ・定期団体が微減
 - コロナ禍や高齢化による
- ・一般団体利用や個人利用の増加
- ・特に調理の講座は競争倍率高い
- ・夏休みの体験講座も大人気
- ・次年度もほぼ同様の講座を予定している
- ・防災、スマホに関する講座開催予定

…などの内容です。

ご参加いただいた懇談会委員の方からは、…



令和4年度 第24号
令和5年3月6日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿 2-16-14
電話 043-243-4343

・中学校では放課後の部活動の改革が行われつつある。公民館も“ゆるい部活動”の場として活用できないものだろうか。

・夏休みの小学生の活動機会はありがたい。高齢者の運動機会も企画していただきたい。

・幼児と高齢者の交流ができるとありがたい。

・高齢者が公民館を利用しやすい工夫を。

・文化祭開催は有意義だった。

…などのご意見を聞かせていただきました。

コロナ禍に見舞われた約3年間でしたが、ようやく日常の生活が戻りつつあります。外に出て、気の合う仲間と顔を合わせ、共に活動していける機会が増えていくことでしょう。公民館はこれからも、地域の多くの皆さんに、『つどい、まなび、つなぐ』場として利用していただけるよう努めてまいります。

地域小中学校やPTAなど地域団体の代表の方から語られた言葉に、コロナ禍を越えて再開される行事や、希望に満ちた新たな活動への展望を感じることができました。ありがとうございました。

主催事業報告 3月1日(水) 「スマホ教室 初級編」

初めてスマートフォンを持った方やこれから使ってみようとする方を中心とした講座でした。電源の入れ方や音量調節、マナーモードの設定、入力の仕方、音声入力など、全くの基礎基本の講習でした。思えば、はじめて持った時、聞いたことのないカタカナの専門用語に大いに戸惑ったものでした。入力を間違ってしまったときに、どうやって元に戻せばいいのか、ここのボタンを押してもいいのか、もし違っていたらどうしようか、など、とにかくおっかなびっくりの初心者だったことを覚えています。時代に乗り遅れてはいけないと、興味関心をもちチャレンジして参加していただいたことに感心致します。

すべての機能を使いこなすことは到底、無理だと思います。家族とのメールやカメラ機能写真の受け渡しなど、必要な機能だけでもうまく使えるようになって楽しく便利に利用できればいいですね。

スマホ活用習熟度は人それぞれレベルが違いますので、今回の講習が全ての方に満足できるものではなかったかと思えます。“もう少し詳しく”、

“アプリの使い方を知りたい”・・・などの感想も寄せられました。初級、中級・・・としても、その中で段階はあるものですので、講座の開催については難しさを感じさせられました。

アンケートの一部を紹介します。

・講師の先生の説明が分かりやすく、楽しい2時間でした。アプリをたくさん使いこなしたいです。・スマホは難しいので、まだ理解できないことがあります。話は分かりやすく参考になりました。・今までわからなかったことがいくつか理解できました。もっと知りたいことがあります。また受けています。・新しい知識がありよかったです。困っていることがそのままなので残念です。

サークル体験記 『朗読の会 ことだま・ちば』

声に出して朗読するサークルを少しだけのぞいてみました。発声練習や早口言葉で口を動かすことから始まりました。この日は、一人ずつ前に出て朗読する発表会のような感じです。新聞のコラム欄や小説の一部、紀行文など、それぞれ自由に題材を選んでいました。

目をつぶって聞いていると、ラジオの放送のようで、スーツと引き込まれて行きます。声の抑揚や強弱、明暗など相当練習して臨まれているようでした。落ち着いた声や切迫した声、穏やかだったり辛そうだったり、まるでドラマを見るような朗読もありました。日本語を声に出して読む、そしてそれを聞くことの面白さを感じることができるひと時でした。ありがとうございました。

クラブ連絡会代表者会議 3月11日(土)10時～

お伝えしてきましたように、今週土曜日にクラブ連絡会の代表者会議が開催されます。会則の一部変更の議案と役員改選がありますので、各サークル1名の出席をお願いします。

マスク着用 どうなる？

来週にも、マスク着用について政府から何らかの方針が示されるようです。これについては、これまでも様々に議論されてきており、表情が分からない、今さら外せない、笑顔で卒業したい、など人それぞれの意見が渦巻いています。きっと科学的根拠を持って発信されるのでしょうけれども『個人の判断で』との見解になりそうです。そういわれても、TPOにおける個人の判断はまちまちになると思われますので、しばらくはもやもやしたままで、一斉に一律に、とはならないでしょう。「まだまだ心配」も正しく、「表情を確かめ合いたい。スッキリしたい」も正しいと思います。互いを尊重し合う

心遣いは、これからも続けなければいけない大切な部分だと思います。

公民館利用の際の注意も通知されることとなりますので、その際には掲示をしてお知らせします。これからも感染拡大防止にご協力ください。

【今日の公民館】 『春の陽をいっぱい浴びて』



3月になって気温の上昇を待っていたようにパンジー、ビオラが一気に開花しました。青、紫、黄色の濃淡の花弁が風に揺れ、春の訪れを感じます。

ぼんぼり雪洞 ～あかりをつけましょ ぼんぼりに～

もともと雪洞は、「せつとう」と読んで、お茶席にお客様がいない時、炭を長持ちさせるために炉にかぶせておく覆いのことでした。

白い紙で作り、くりぬいた窓をあけていたので、洞穴に見立ててそう呼ぶようになったのでしょう。

それを照明器具にしたのが雪洞だといわれています。

「ぼんぼり」は、ぼんやりとか、ほのかという意味の言葉。あかりが、ぼんやりと見えるので、こう呼ぶようになったのですね。

最近では、ひなまつりよりお花見の時の方が活躍するのかもしれませんが。

雪洞が演出するほのかな明かりは、^{なまめ}艶かしい春の風情です。

何でも、はっきり見えるのがいいとは限りません。

雪洞のような優しい眼差しも、時には必要かもしれませんね。(山下景子「美人の日本語」より)

ポケットに カイロ忍ばせ 早春賦

～春になっていく嬉しさ・・・

卒業に 『乾杯』の詩が 背中押す

～君に幸せあれ～

(新宿公民館 館長 迎 浩二)

